

経営協

4

2013 Vol.355

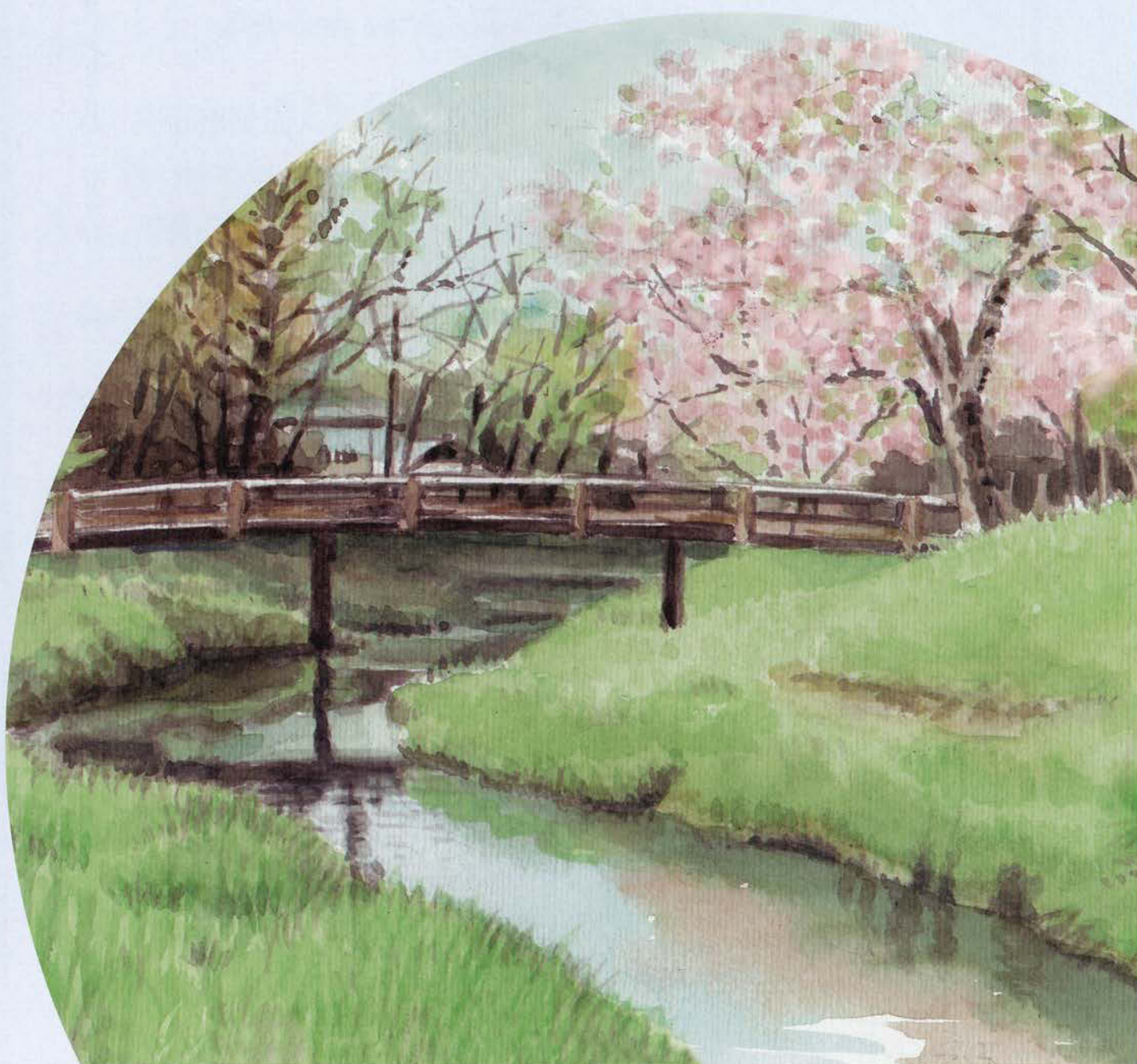
特集

「トータルな人材マネジメントの実現」

論 点

「和魂洋才」

社会福祉法人旭川荘 名誉理事長・荘長 江 草 安 彦



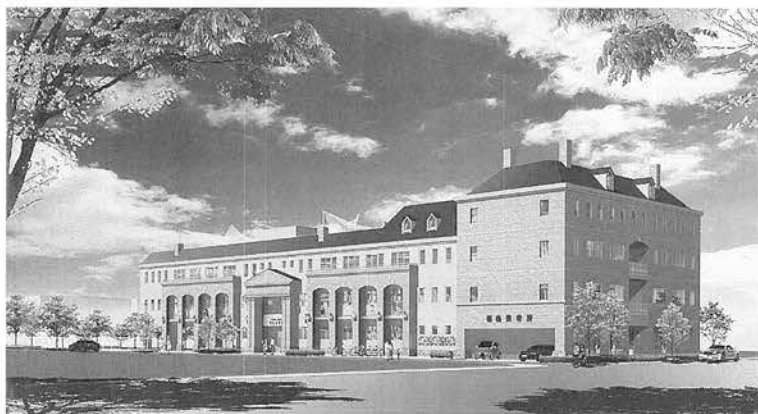
社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国社会福祉法人経営者協議会

地域生活を支える 社会福祉法人

制度の枠を超えた相談窓口 「ひまわりネット」の活動

社会福祉法人都島友の会／大阪府

理事長 渡久地 歌子



都島児童センター完成予想図



笑顔の園児たち

地域の概要と法人設立の経緯

商都大阪の発展により農村から 市街地に変貌した都島区

近畿地方の商工業・金融の中心都市である大阪の急速な発展によって、明治時代の農村地域から、住宅、工場、商店の混在した市街地となった都島地域。1970年代以降、地価高騰や都市のドーナツ化現象により工場は郊外へ移転した。その跡地の再開発で高層住宅建設が相次いで、都心に隣接した交通の便利な住宅地として、人口が増加している地域でもある。

利便性のよい住宅地であることから、勤労世帯の比率が高くなっている。都島区の人口は10.3万人だが、高齢化率は21.3%で大阪市全体の23.5%より低く、全国平均も下回っている。また、0～14歳は大阪市平均の11.5%と同じ比率となっている。そのなかで、保育所の待機児童数は、大阪市全体で1,611人、そのうち0～2歳児が1,453人で90.2%を占めており、都島区では121人とされている（2012年10月1日現在・大阪市発表）。

公園で青空幼稚園を開始

沖縄出身の比嘉正子は、18歳から大阪バプテスト神学校（現ミード社会館）で学び、卒業後大阪市

立北市民館保育組合の保母となった。このときの保育体験のなかで、「貧しい者、病弱な者、困窮した母子の姿をみて、常に弱者の側に立つ」と決意した。そうした考え方に、大きな影響を与えたのが北市民館の志賀志那人館長であった。

あるとき、館長から「都島へいって幼稚園をつくらないか」といわれた。当時、都島地区には幼稚園がなかった。館長からの依頼を受けた比嘉正子は、青空幼稚園を1931（昭和6）年3月に開始することになった。

開設当初は園舎や園庭もなく、都島小公園を利用し、雨天時は集合場所兼事務所で午前中保育を行うスタイル。公園の木々や草花、石ころや虫など、自然を友として子どもたちの育ちを見守るものであった。

同年8月「北都学園」を設立。地元住民の協力で土地を借り受け、名誉園長の山野平一氏から新築園舎の提供を受け、幼稚園としての体裁が整った。1932（昭和7）年に「私立都島幼稚園」と改称し、比嘉正子が園長に就任、翌年幼稚園の認可を受ける。法的には幼稚園であるが、幼稚園の教育的要素と保育所の保護的要素を兼ね備えた内容であった。

🌸 保育所と学童保育を行う 「都島児童館」開設

1945（昭和20）年3月に、戦況逼迫のため大阪府から幼稚園の閉鎖命令を受け事業を終了した。終戦直後は社会的混乱が続き、食糧難のなか人びとは必死になって生きていた。比嘉正子は、主婦を組織して婦人運動を展開する一方で、小学生が小さな兄弟姉妹を連れて学校へ行く姿をみて、未就学児や小学生が立ち寄れる施設をつくることを決めた。

「私立都島幼稚園」の卒園生や、その保護者、地元住民の協力を得てできあがった手づくりの施設、「都島児童館」が1949（昭和24）年に完成した。「児童館へ行けば何か食べることができる」「弟、妹を学校に連れて行かなくても児童館で預かってもらえる」「習字やそろばんを教えてもらえる」として、子どもたちには大好評となった。



開設当時の都島児童館

翌年には法人化し、「財団法人都島友の会」として認可された。また、都島児童館の内に定員50名の「都島保育所」が認可され、幼児部・保育部として保育園が使用し、子ども図書館を学童保育の場として使用した。

学童保育として、小中学生が利用する学童部・クラブ部を設けた。福祉制度が不十分な時代に、現在の学童保育の先駆となる取り組みを行ったのである。

都島児童館は、乳幼児保育と幼児生活クラブと学童クラブの機能をもつ現在の「都島児童センター」の原形となった。1952（昭和27）年には組織変更し、「社会福祉法人都島友の会」と改称した。

保育・児童から高齢者まで 事業を展開

🌸 乳児保育所の開設

1966（昭和41）年には、地域の工場で働く女性の増加に伴い、産休明けからの保育の要望に応え、生後4か月児から2歳児を受け入れる「都島乳児保育センター」を開設した。0歳児の乳児保育としては、日本初の試みであった。現在は、保育所を都島区内に7か所、城東区に1か所、また、比嘉正子の出身地である那覇市で保育所2か所を運営している。

保育所内での障害児保育にも1960年代から取り

組み、現在の児童発達障害児支援センター「都島こども園」として発展し、障害児の相談事業や通所支援事業を行っている。

さらに、本年9月の都島児童センターの改築完成に伴う事業所再配置の際に、障害者が働くパン工房の開設を予定しており、成人分野の事業にも取り組むことになる。

🌸高齢者介護事業を開始

さらに、高齢者介護ニーズの高まりを受けて、介護事業への展開を検討していたが、1999（平成11）年に高齢者介護事業に乗り出し、デイサービスセンター「ひまわり」を開設した。その3年後には、特別養護老人ホーム「ひまわりの郷」を開設した。

こうして、乳幼児から高齢者まで、社会的弱者のための事業を行うことは、比嘉正子が福祉の目標として掲げた「ゆりかごから墓場まで」を具現化するものだといえる。

🌸親と子のふれあいを深める子育て支援

都島桜宮保育園では子育てサロン「フレンドリーさくら」、那覇市の松島保育園では子育てサロン「みわらび」を運営している。

子育てサロンでは、産休や育休中の母親、出産を控えた「もうすぐママ」の育児相談や、母親同士の情報交換の場となっている。

また、「イクメン＝男親」の養成にも力を入れて

おり、父親の子育て参加の機会を設けている。那覇の松島保育園では、「父親座談会」を2年前からはじめ、父親の子育て談義を重ねてきたが、いまでは園外でのピクニックなどイベントを企画するほどになり、父親同士の交流を深めるとともに、子育て参加に積極的になる効果も生まれている。

また、大阪市の委託事業として、都島乳児保育センターでは「保育ママ事業バンド組」、都島第二乳児保育センターでは「地域子育て支援センターのびのび」、都島友渕保育園では「つどいの広場事業フレンドリーともぶち」をそれぞれ運営している。

制度にとらわれない 社会貢献への取り組み

🌸ひまわりネットワークの設立

戦後の社会構造の変化から、大家族制が崩壊し核家族化が進むにつれて、子育てに息が詰まり悩む親、高齢者や障害者の世話の引き受け手の喪失など、家族が抱える悩み事が顕在化してきた。さらに近年、経済的格差が拡大し、非正規労働者の増大、貧困、虐待、孤立死、自殺、DV、ホームレス、ひきこもりなど、さまざまな社会的課題が山積し、既存の社会福祉制度では対応しきれない状況にある。

そうしたなか、福祉に関わる事業者として、「福祉とは何か」「私たちは何をすべきか」「社会福祉法人は今後どこに向かうべきか」などが問われていると思われる。法人としても、既存の制度の枠にとらわれず、それぞれの問題を抱える人びとへの支援方法を模索してきた。その支援方法のひとつとして、子育て・介護・障害・なんでも相談窓口「ひまわりネット」を2011年9月に開設し、法人の独自事業として運営している。

これまで、各保育園や子育てサロンで相談に対応していたが、各保育園では十分な相談時間が取れない、あるいは直接相談しにくい事情を考慮して、地域に開かれた相談窓口として「ひまわりネット」が対応に当たっている。具体的には、保育園に入りた



デイサービスセンターで高齢者と交流する保育園児

い、一時保育を利用したい、トイレトレーニングはどうすればいいのか、学校や保育園に行きたがらないなど、子育てに関するあらゆる相談に応じている。

障害児保育に取り組んできた実績を生かし、言葉が遅いかもしれない、友達とうまく遊べない感じがするなど、子どもの障害に関する相談にも応じている。

また、介護保険による介護認定を受けるにはどうしたらよいか、自宅で入浴させることができない、という悩みにも対応している。

さらに、安全な食べ物についての知識、こんなものを買わされてしまったなど、生活上の困りごとや悩みなど、幅広い内容の相談に応じている。

地域機関と連携するひまわりネット

保育・障害・介護など、法人の事業によって蓄積されたノウハウで対応可能な相談内容であれば、担当する専門職員と一緒に相談に応じている。さらに、内容によっては、家庭を訪問しての相談を行うなど、柔軟な対応をしている。

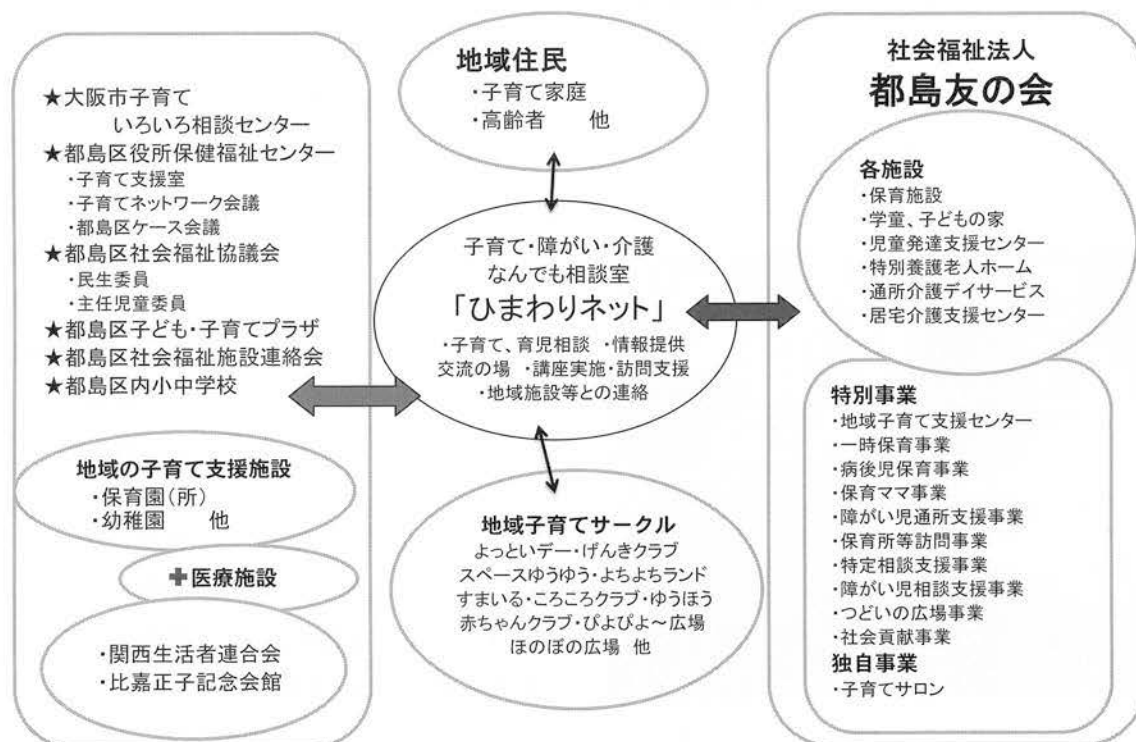
しかし、必ずしも法人内で対応できるとは限らないため、市や区の子育て支援機関や、地域の保育所から小中学校の教育機関、民生委員や児童委員、地域の自治会など、幅広い連携のなかで、問題解決に適した専門家や機関への橋渡し役を務めることが、ひまわりネットの1つの役割である。

ひまわりネットを開設して17か月、その間に寄せられた相談件数は84件で、その多くを占めるのが子育て相談だが、なかにはネグレクトなどの問題を含んでいる。また、学校でのいじめによる不登校の問題、親の過干渉で子どもの自立を妨げ引きこもるケース、さらに女性のDV被害など、相談内容は多岐にわたっている。

生活に役立つ講座の開催

相談業務以外に、法人の看護師によるベビーマッサージ講座や、消費生活上の身近なトラブルを防ぐための講座、栄養士による料理教室などを実施している。さらに、外部で開催される講座に法人職員を講師として派遣するなど、地道な地域貢献を重ねている。

子育て・障がい・介護なんでも相談室「ひまわりネット」の状況



また、2012年5月から毎月11日に「11（いい）ね！物産展」をひまわりネット事務所前のスペースで開催し、都島児童館の子どもたちも手伝い、東北の被災地支援を行っている。

さまざまなイベントは、その都度チラシを配布するほか、「ひまわりネットだより」や法人の広報誌「ゆんたく都島」を通して告知している。こうした情報発信を重ねることで、ひまわりネットは地域の人びとが気軽に集えるスペースとなることをめざしている。



「ひまわりネット」事業所前で開催された「11（いい）ね！物産展」

今後の可能性と課題

ひまわりネットを運営していくなかで、さまざまな団体との協議を通じて、新たな課題が浮かび上がってくる可能性がある。例えば、地域の子どもの安全を見守る元気な高齢者のネットワーク構築や、独居高齢者を定期的に訪問するボランティアの組織化などが考えられる。地域ニーズを肌で感じるこののできるひまわりネットだからこそ、そうした提案や実現化への働きかけが可能だと思われる。

このように、相談を受けるだけでなく、地域福祉のために外部へ向けての働きかけも今後は必要になると考えている。

法人の創設者比嘉正子は、「制度の枠組みからこぼれ落ちた人びとを救わなければならない」との強い思いから事業を開始した。社会福祉法人都島友の会としては、その志を継承し、制度の枠組みから外れた新たな課題を注意深く観察し、その解決の一助となることをめざす使命があると思っており、その前線部隊となるひまわりネット事業は、今後ますます重要になると考えている。

法人の概要

法人名：社会福祉法人 都島友の会

理事長：渡久地 歌子

本部住所：大阪府大阪市都島区都島本通3-4-3

事業内容：

○保育所：

都島保育所

都島乳児保育センター

都島第二乳児保育センター

都島東保育園

都島友洲保育園

都島桜宮保育園

都島友洲乳児保育センター

成育保育園

渡保育園（那覇市）

松島保育園（那覇市）

○児童館：都島児童館

○児童発達支援センター：都島こども園

・障害児相談支援事業

・特定相談支援事業

・保育所訪問支援事業

・障害児通所支援事業

○高齢者施設：

特別養護老人ホーム：ひまわりの郷

・ひまわりの郷診療所

デイサービスステーション：ひまわり

居宅介護支援事業所：ひまわりⅡ

○独自事業：

ひまわりネット（子育て・障害・介護
なんでも相談室）

○収益事業：福祉ビル・あやなす荘
（不動産賃貸）